

東京電力福島給食センターの概要について

児玉 達朗 (こだま たつろう) 東京電力株式会社 原子力安全・統括部 グループマネージャー 博士 (工学)
 綱川 隆司 (つなかわ たかし) 前田建設工業株式会社 建築事業本部 企画・開発設計部 BIM 設計グループ長
 田中 慎太郎 (たなか しんたろう) クリナップ株式会社 東京支社 業務厨房営業所 主任
 飯田 憲司 (いいた けんじ) タニコー株式会社 本社営業部・設計課 リーダー

要約 東京電力は、福島第一原子力発電所 (以下、「1F」) 廃炉作業の加速化・信頼性向上のため労働環境改善策を企画し実施をした。その中で食事環境の抜本的な改善策の基幹となるプロジェクトが東京電力福島給食センター (以下、「給食C」) である。本プロジェクトは、基本設計の初期段階から厨房機器メーカーの参画とビルディング インフォメーション モデル (以下、「BIM」) を用いたことから設計から15ヶ月で営業開始を果たしている。1F内の作業員を対象に3000食/日を提供する給食Cは安全・衛生管理、作業効率、厨房環境、作業環境、コスト低減などに優れたオール電化による給食設備を採用し、多メニュー・大量調理を実現したが本稿では、そのプロジェクトの企画意図、設計経緯と施設概要を報告する。

1. はじめに

東京電力は、1Fでの廃炉作業や汚染水・タンク問題対策の加速化・信頼性向上を目的とした労働環境の抜本改善策として1F内の作業員を対象に3000食/日を提供するため、給食Cを2015年3月より営業を開始している。

図1に給食C南側上空からの全景を示す。

1F構内の作業従事者を対象として定期的な実施をしているアンケートでは食事環境に対しての改善要望



所在地：福島県双葉郡大熊町大字大川原字南平 1010-1
 敷地面積：9,828.24 m²
 建築面積：3,256.75 m²
 延床面積：4,052.64 m² (付属棟含)

図1 給食Cの全景

が強く寄せられていた。発災直後、ブロックタイプ栄養食やレトルト食品が中心であったが、2011年秋頃より市販の仕出し弁当等に移行している。仕出し弁当の多くはいわき市から供給されているが搬送距離の関係から温かみに欠け、作業従事者からの不満が募っていた。図2に2013年初頭に実施した作業従事者を対象とした作業環境に関するアンケートのうち作業環境に対する主な要望を示す。

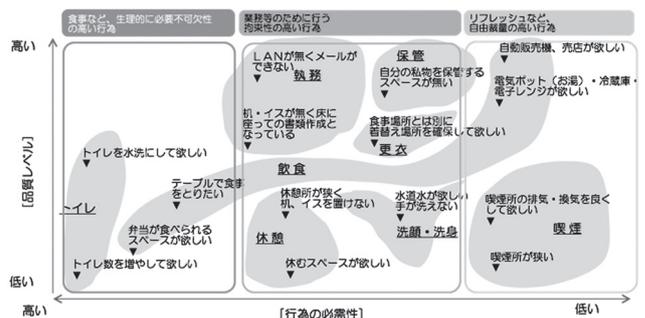


図2 作業環境に対する主な要望

2. 給食Cの企画意図と経緯

1F構内の作業環境改善の中で休憩施設を対象とした環境改善の検討は2013年2月頃より東京電力社内で行われていた¹⁾。1F構内に社員食堂を設置する検討はこの一貫として行っていたものである。